平成24年度 シラバス	学年・期間・区分	3年次・通年・A群	
	対象学科・専攻	都市環境デザイン工学科	
建築計画 (Planning and Programming for Architecture)	担当教員	岡松 道雄 (Okamatsu, Michio)	
	教員室	都市環境デザイン工学科棟3階 (TEL: 42-9122)	
	E-Mail	okamatsu@kagoshima-ct.ac.jp	
教育形態/単位の種別/単位数	講義 / 履修単位 / 2単位		
週あたりの学習時間と回数	[授業 (100分)] × 30回		
[本科目の目標] 建築を設計する前段として、建物のコンセプトから所要室の規模・数、さらには詳細の考え方にいたるまで、さまざまな「計画」が必要となる。前半は「形」の背景にある要因と人間の知覚といった建築計画学の基礎を、後半はその応用として計画のプロセス学ぶとともに、建築計画とは何か、その役割を理解することを目標とする。			
[本科目の位置付け] 建物を設計するに当たり、造形やデザインの能力が必要であるが、同時に数値化できる「計画能力」も要求される。本講義は建築技術者として必要な計画能力の基礎を養うと同時に、建物の形態に対する理解力を養う機会として位置づける。また、3年次において、学生の適正を判断する講座のひとつであると同時に、卒業後、建築士の資格取得に必要な重要講座でもある。			
[学習上の留意点] 本科目は授業形式で行う。講義の内容は、広範にわたる計画学の概要を紹介するもので、幅広い分野にわたる事象に対して興味をもつことが重要である。特に自然環境・歴史・社会学・心理学など人間の行動を読み解き、建築の形態に反映するための基礎学習として、建築の専門書以外に関連する上記分野の書物をできるだけ多く読むことを推奨する。この点について適宜レポート課題を課す。建築の技術面だけでなく、人間の根本的な行動や自然の原理にまで立ち返って理解するように努める。			
[授業の内容]			
授業項目	時限数	授業項目に対する達成目標	予習の内容
1. 空間の形態 —かたちは何で決まるか—	8	☐ 建物や空間の形態が、どのように決定付けられるかについて、地理的環境・機能・構造・建築技術・安全性・美しさ・象徴性・法規などの観点から理解できる。	教科書第1章について概要を把握しておく。
2. 人間の知覚と行動 — 前期中間試験 —	6	☐ 心理学や人間行動学を基に、建築形態・空間のあり方を理解できる。 授業項目1・2について達成度・理解度を確認する。	教科書第2章について概要を把握しておく。
3. 寸法と規模の計画	8	☐ 人間のサイズ・ヒューマンスケールと建築の寸法体系を理解できる。	教科書第3章について概要を把握しておく。
4. 空間の性能 — 前期末試験— 答案返却・解説	6 2	☐ 建築空間の性能を、安全性・衛生性・機能性・快適性・経済性・サステナビリティなどの観点から理解できる 授業項目3~4について達成度・理解度を確認する。 試験において間違った部分を理解出来る。	教科書第4章について概要を把握しておく。
5. 計画技法 5-1計画のプロセス 5-2空間構成の技法 5-3空間構成のエレメント 計画技法まとめ — 後期中間試験 —	14 (2) (4) (6) (2)	☐ 複雑な要素が絡み合う建築空間の計画を進めるためのプロセスと技法、そして空間を構成するエレメントを理解できる。 授業項目5について達成度・理解度を確認する。	教科書第5章について概要を把握しておく。
6. 外部空間の構成と配置計画	8	☐ 外部空間のもつ意味と構成手法を理解できる。	教科書第6章について概要を把握しておく。
7. 建築の設計製図—計画の表現	4	☐ 優れた建築作品の図面を参照しながら計画の表現方法について理解できる。	教科書第7章について概要を把握しておく。
8. 建築計画まとめ —後期末試験— 答案返却・解説	2 2	☐ 建築計画全般のまとめをおこない、建築行為における計画学の役割を理解できる。 授業項目5~8について達成度・理解度を確認する。 試験において間違った部分を理解出来る。	教科書の概要を再度確認し理解を深める。
[教科書] 現代建築学「建築計画1」(新版) 岡田光正、柏原士郎、森田孝夫ほか共著 鹿島出版会			
[参考書・補助教材] 「外部空間の設計」 芦原義信著 - 彰国社			
[成績評価の基準] 中間試験および期末試験成績 (70%) + レポート (30%) - 授業態度 (上限20%)			
[本科 (準学士課程) の学習教育目標との関連] 3-c			
[教育プログラムの学習・教育目標との関連]			
[JABEEとの関連]			